

花まるだより

2025
112

Hanamaru
Monthly
Newsletter





2025年12月

三角形

私には自分より20歳以上も年若い友人が何人かいます。皆、何か一つ優れていたり私にはない魅力があったりするので、一緒にいる時間は本当に楽しいし、彼らのアンテナでキャッチした「いまおもしろいもの」を教えてもらうことが脳への刺激にもなります。そんな友人の一人で、デザイン一つ

もしろさに引きこまれ一気読み。宝を見逃していた自分を恥ずかしくも感じましたが、感動が上回りました。

その矢野さんと『AERA with Kids』（朝日新聞出版）で対談できることになりました。最新作の『トリニティ組織』（草思社）がお話の中心です。この本は彼独自の解析技術を使って一兆件のデータを分析した成果で、一言で言うと「社員が幸せで生産性が高い組織は、人間関係に『三角形』が多かった」というものです。たとえば、上司と二人の部下がいて逆V字の形で関係があるよりも、その部下同士が強い絆で心理的安全性とともに信頼関係があり三角形の形になると、幸福でパフォーマンスが良くなるというものの。社会人だけではなく学習塾での研究データも出ていて、先生と生徒との間に三角形ができると成績さえも伸びることが研究データとして明示してあります。注目すべきは、三角形の相互のつながりの意味で、簡潔に言うと「休み時間の雑談が多いほど絆は強い」ということが示されています。

矢野さんとは実は社会人の勉強会的な合で、何年も前に会っていたしお話しをしたこともありましたが、ゼロイチ成功組の押しの強さや陽気なパフォーマンスと違い、堅実で寡黙な方に見えました。その著書も買っただけで速読的に流し読みはしていません。しかし、Hくんが言うならと改めて読み直してみたら、人間の幸せを先端的な技術を使って研究した力作で、あまりのお

まあ人間関係に気を遣う日本人として

は、言われれば「そりゃそうだ」となりませんが、科学的エビデンスで示せたことこそが価値だし、帯で山口周さんが書いているように「ついに日本発の世界水準の組織理論が出た」ということになります。

さて、対談も終えて私が考えたのは、いや待て、このトリニティ（三角形）理論は子育て・家庭でも言えるぞ。いやいやそもそも私は講演会で何度もこのことを言ってきたではないか、ということでした。

一つは「夫婦の危機」について。子どもの健やかな成長の中心点は偉大な「母」です。しかし、行き渡り・親の言うことを聞かない・宿題をやらない・弟をいじめる等々、症状はさまざまあるなかで、子どもの課題に見える多くの問題は、現場で目を凝らして見ていると、「これは夫婦の信頼関係の崩壊とそれに伴う母の苛立ちや不安が根本原因じゃないか」と感じるが多かったのです。その究極のケースが離婚ですが、お互い頑張っているし愛着はあるのに、なぜそういうことになるのか。

数年前、コロナの最大の恐怖から解放されたあつた時期に、本当に偶然「うちの

新刊情報

『地頭がよくなり 生きる力がつく
世界の昔ばなし25』



高濱 正伸 監修
(西東社)

『日本の昔ばなし25』に続く待望の続刊！
高濱式 読み聞かせメソッドでぐんぐん育つ！
イソップ、グリム、アンデルセンなどの定番のお話から、教科書に掲載されているお話、知人ぞ知るお話まで、高濱おすすめの世界の昔ばなしをたっぷり25話収録。
時代をこえて語り継がれてきた昔ばなしは、強いストーリー性と洗練されたことばの魅力を兼ね備え、子どもたちの学ぶ力・生きる力の土台となります。

『自分から学べる子になる
戦略的ほったらかし教育』



岩田 かおり 著
(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

日本の教育の大きな問題は過保護過干渉のまん延である。失敗、喧嘩、挫折、孤独、不運など、誰にでも訪れる負の経験を「除菌ことなかれ主義」で遠ざけさせてしまう。壁に当たるなかでの自問自答や内省こそが、哲学を構築し、克服すれば心が強くなる。本書は、まさにこの点に焦点を当て、手出し・口出し・先回りをやめる指南書だ。放任ではなく、自分で選択・決定し、自ら学ぶ体質を育成する方法など、親がどう「ほったらかし」にすべきかを示していて説得力がある。

高濱の本棚

娘夫婦が離婚寸前なんだよ。話を聞いて

やってくれないか」とか「うち、もう危ないんです。一緒に話を聞いてもらえないですか」と頼まれて、激突状態の若い夫婦

の仲立ちに挑戦したことがあります。見込みなどなく単純に「これは誰もやったことがないんじゃないかな。おもしろそうだな」という好奇心と「少しでも役立つ可能性があるなら、この仕事をやっている意味もあるな」という貢献したい気持ちだけでした。

そして立て続けに三組のご夫婦とお話したのですが、結果から言うと三組とも明らかな改善がありました。一組などは一か月後に手をつないだりじやれる形で小突き合ったりしながら登場しました。私は何をやったのか。至極単純です。二人の間に入ってお互いの言葉を繰り返してただけです。夫が「こいつに言っても無駄なんですよ」と言えば「こいつに言っても無駄とおっしゃっていますよ」。妻が「本当にもう、私の気持ちなんかわからないんですよ」と言えば「本当にもう、私の気持ちなんかわからないっておっしゃっていますよ」というように。方針があったのではなく直観でそうしたのですが、これがどういう効果をもたらしたか。恨みや激突だった心理状態が、だんだん「笑えてくる」または「温かい」感じがじんわり広がるような感覚になって

きたのです。

そんな簡単にいくかと思われるかもしれませんが、二者でいがみ合っているとは解決できないことも、「男はつらいよ」の寅さんのように「おせっかいおじさん」として三角形を構築するだけで、人間関係ははぐくもりを生み出すのでした。

また、講演会で繰り返してきたのは、一つの家族のなかだけで頑張ろうとするよりも「3つくらいの家族同士が『いつもこの三家族でキャンプ行くんです』『この三家族で浦和レッズの応援に行くんです』というようになると、母の安定・安心感がグンと高まりますよ」ということです。詳しく言うと、二家族だと、ちよつとしたことで関係がギクシャクしたものが修正しつらい。二が三になると柔軟な仲裁や緩和の声かけが入るといことがわかりました。

どうでしょうか、これらも家庭の幸福のための「トリニティ理論」と言えるのではないのでしょうか。私の役割はエビデンスを示す研究者ではなく、現場の荒波に立ち観察し感じ言葉にする「お父さんお母さんの応援団」だと思っていますが、これからもアカデミックの分野の方々に学びながら、子育てを頑張っておられるご夫婦に、少し

でも役立つ応援・アドバイスができるようになりたいと思います。

新しい年が、多くの三角形の構築とともに、心穏やかで幸せをかみしめられる子育てで満ちますように。よいお年をお迎えください。

花まる学習会 高濱正伸

花まるだより 2025年12月号

(令和7年12月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 井坂 敦子・金井 彩・清田 奈南
坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社

新しい一年のはじまり！
家族で新春なぞペーに挑戦しよう

新春
なぞペー
2026

お年玉
プレゼントも
あるよ！

新年のご挨拶は Comiru「お知らせ」でお送りします。

全国の花まる教室長、約150人をまるっと一年かけて高濱が直接インタビュー！ 高濱による他已紹介「タカタコ」で、みなさんの教室長を紹介します。今年のテーマは、「私の極み」！ 本気で挑んだこと、情熱をもって取り組んだことから、教室長一人ひとりを深掘りしちゃいます。サマースクールや雪国スクールで会ったリーダーたちも探してみてくださいね！

雪国スクールと
無人島コースの
2本立て

野外体験

春休みも花まるの

2026年
1月8日(木)11:00~
申し込みスタート!!
申込締切:1月21日(水)19:00



ぎゅーっとなかよし!



びゅーん!



ステップアップスキークラス

スペシャルコースに
行ってきまーす



曲がるよ~!



はじめてのスキーは
挑戦がいっぱい!



はじめてスキークラス

太鼓木!!
リレーがっついていよう!



エキスパートスキークラス

最高の仲間と!

ターンも習得!



風になった
みたい……!



ベーシックスキークラス

ハの字を確認!

できた!



雪ってきれいだね～！



ふわふわです！



雪合戦スタート！

花まる卒業生にインタビュー！

廣田 千晃さん

花まる学習会：年長～小6
花まる野外体験の参加回数：8回

警戒心が強く、なにをするにも最初は時間がかかる子どもでした。野外体験でもはじめの頃は帰りのバスでみんなと

仲良くなるような感じていた。

少しずつ慣れてきた3年生の頃、思い通りにならないことがあって、いやでいやで泣いたことがありました。そのときの宿長に「やってみないとわからないよ」と言われたのが印象に残っています。実際にやってみたら、すごく楽しかった！

そこでMVPをもらってから、自分からコミュニケーションを取れるようになり、初めてのところに飛び込むことにも恐怖心がなくなりました。

「やってみて、いやだったらいや、それでいいんだよ」という言葉に勇気をもって、挑戦を楽しめるようになりました！



たのしー！！
もういっぱい！



ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ



まっしろな世界で
なにをしようかしら



うあ～！



ひんやりする～！



じゃじゃーん！



こたわりの一玉まる

雪国 スクール

東京都
上野 出発

春も

やりたい！

をかなえよう

スキーをするの
雪あそびをするの？

雪あそびコース



なにかを「努力する」ということは無縁に近い生き方をしてきました。一方で、好きになつたらとことん探究・追究する性癖もあり、生き抜く支えになつてきたと感じています。一年に一語、抽象語を探究しようという「思考力」とか「美しい」という言葉を掘り下げ続けたこともあります。授業の設計なども「この脳を使わせたら次はここ」というように想像して準備するのですが、子どもたちが躍動すると本当に幸せです。『柳澤アンソニー単人

—キミはなぜ 無人島を目指すのか—

花まる子ども冒険島
(来島)

—そこにあるのは、夢？ 憧れ？ 冒険心？

申し込み
スタートは
1月8日(木)
11:00!
申込締切:1月21日(水)
19:00

花まるグループを卒業する小学6年生へ贈る、小学生最後の野外体験

無人島 ~春の卒業旅行編~

広島県
福山駅 集合

「ない」ではなく、「ある」を見るべし

無人島で過ごしていると、思い通りにならないことがたくさんあります。
火がつかない。魚が釣れない。急に雨が降ってきた……。
でも、そんなときこそチャンスです。
子どもたちは考えます。
「いまあるもので、どうにかできないか？」
そうやって、「ない」ではなく、「ある」に目を向けていく。
それが、この島で大切にしている掟のひとつです。



魚が釣れなければ、磯を歩いて生き物を探す。
仲間と力を合わせて火をおこし、誰かが困っていたら、さっと手を差しのべる。
島には、普段あたり前にあるものがないからこそ、
そこにあるものがくっきりと浮かび上がって見えてくるのです。
火のぬくもり、仲間の声、そして自分の力。
無人島は、そんな「ある」を見つける場所です。

この小学6年生限定企画では、島にタイムカプセルを埋めます。
小学校生活の締めくくりに、自分への手紙や思い出の品をひとつずつ入れて。
10年後、カプセルを掘り起こしたとき、彼らはどんな「ある」を見つけるのでしょう。

いまここにあるものを改めて見つめてみると、当たり前だと思っていたものの尊さに気がつきます。
情報やモノにあふれるいまだからこそ、本当に心をあたためてくれるものは、きっともっとシンプル
なところにある。
子どもたちと過ごしながら、そんなことをしみじみと感じています。

うまくいかない日こそ、よく見てみよう。
きっとそこにも、「ある」がかくれています。
見つけた瞬間、世界が少し広がるはずです。

花まる学習会 加藤 崇彰 (カトパン)



「るろうに剣心」の佐藤健に恋して、中2のときに近所の剣道場で剣道を始めました。83歳のお爺さん師範が、ちょっとでも気を抜こうものなら「いま手を抜いてたらう！本気でかかってこい！！」と叱る先生で、高3で辞めるときまでたった一度も勝てないほど強い方でした。「若くなくても強い人は強い」という競技で、「心技体そろってこそ一本」「残心」などの考え方を含め、人生観に影響を受けました。| 加藤やくもっち八雲



釣れなかったら
醤油メシ!



さあ、サバイバルが
スタート!



とったぞー!



お風呂は海水を
運んで沸かす



あるものに目を向けたら
“ごちそう”になる!



無人島には水道も燃料もない
ここで日常の豊かさを知る



タイムカプセルに
思い出と決意を込めて。
10年後にまた会おう!



いよいよお別れの時



生きるとは? 家族とは?
哲学と語らひは続く



「ありがとう」の涙と刻まれた思い出たち

私の財産

6年女子

はじめて来た無人島のコースで私が学んだことは大きく分けて二つある。

一つ目は、あたりまえの日常生活でわからなかった「便利」を知れたことだ。特に、ごはんを炊くためにはマッチで火をつけるだけでなく、木を集めて組み立て、調整する、その一つひとつに工夫が必要だった。一人でやっていたら「大変」で終わっていたかもしれないけれど、先生や仲間と一緒にやりとけたから一つひとつが楽しかった。不便を仲間と協力して乗り越えることができた。

二つ目は、先生や仲間と生活し、自分のことは自分でやることの楽しさに気づけたことだ。ふだん家では親にお皿を洗ってもらい、ごはんをつくってもらっているけれど、第三者である先生や仲間と試行錯誤しながらつくったごはんがおいしかった。

そして何より、一緒にごはんを食べ、お風呂に入り、生活をともにしたことで、仲間との仲が一層深まり、たくさん話せたことと自分がうれしかった。先生たちも、寝られたか心配していた私を気づかって、寝られたときはうれしそうに拍手してくれて、私の大きな支えとなった。

このように、「あたりまえのありがたさを知った。先生や仲間が自然と手助けしてくれたことがうれしかった。だから私も、言われてからはなく、自分から自然と手助けしたいと思った。自分がうれしかったから自分も誰かに!」と思ったことが、このコースに参加したことで得られたかけがえのない財産だと思う。



こんげっ

今月のレインボータイム

【スターを照らせ！】

✕ じるし 印に または かがみ して い まいすうぶん お ひかり とど の鏡を指定された枚数分置いて光を届け、スターを照らしましょう。

・ 光はまっすぐ進みます。

✕ じるし かがみ お かがみ ひかり ちようかく はんしゃ の鏡を置くと、鏡は光を直角(90°)に反射します。

・ 鏡は両面で光を反射します。



みずぐち れい
出題：水口 玲

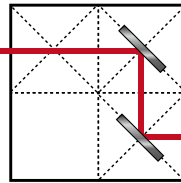
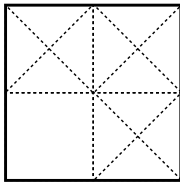
はな がくしゅうかい
(花まる学習会)



解答は
こちら

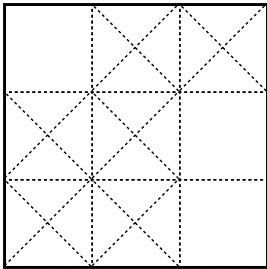
れい

2枚



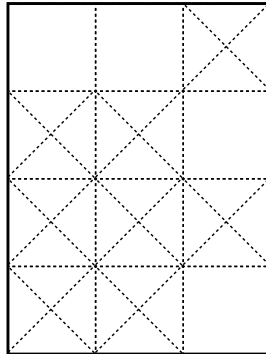
レベル5

4枚



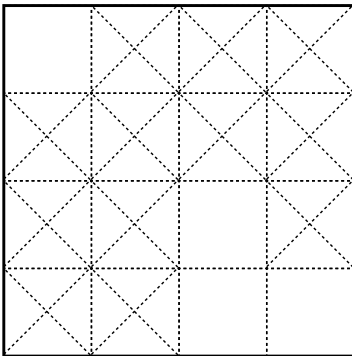
レベル30

7枚



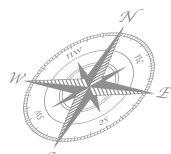
レベル50

10枚



今どうしてる？

卒業生物語



花まる学習会・スクールFC卒業生のその後に迫ります。
第33弾は、強い心で人生を切り拓いた、伝説の卒業生にインタビュー！

ようこそ先輩!!



ひらばやし りょう たろう
平林 遼太郎さん

【花まる学習会】南浦和教室（小1～小6）
【スクールFC】南浦和校（中1～中3）
*担当教室長：松田な奈、中山翔太、水口玲、中林壮太 ほか
【進路】公立中学校→埼玉県立大宮高等学校→東京工業大学（現 Science Tokyo）
【現在】経営コンサルタント

したので、遼太郎は力があるよ。中学時代の成績はよかったの？

平 いえ、全然よくなかったです。本格的に勉強をはじめたのは3年生になってからだった。両親が大宮高校出身だった影響もあって志望しましたが、かなり頑張らないと難しいと言われました。合格もギリギリだったと思います。

高 不安に負けずに実現させてしまうのがすごいな。

平 中学2年生で参加したFCの勉強合宿をきっかけに、勉強に本気で向き合えるようになりまし。それまでは自分の力ではみんなを追い抜くことはできない、それなりにできればいいと思っていたのですが、それをわかってくださった水口先生が「一番を目指さないの？ もっと上を目指さない」と言ってくださり衝撃が走ったんです。自分も上を目指していい、やればできるようになると思えました。3年生になって中林先生に「頑張張り続ければ結果は出る」と背中を押していただき、その言葉を信じて頑張張り抜くことができました。

高 それは嬉しいなあ。

■部活動で得たもの

高 学生時代は部活に打ち込んだの？
平 中学時代は陸上部で、種目は800m

1500m走でした。

高 いいねえ。俺の仮説では、1500m走が速くなるまで自分を鍛えた人は仕事ができるんだよ。

平 高校時代はラグビーに明け暮れ、大学でも体育会のラグビー部に入り本気で打ち込みました。日々の練習や合宿の厳しさはもちろん、危険と隣り合わせのスポーツなので、人生でこれ以上辛いことはないという経験ができたと思います。

高 逆境に負けない強い心は部活動で鍛えたのか。

■花まる・FCで培った力

高 遼太郎にとって花まる・FCとは？

平 「母校」です。高校時代に予備校に通わなかったで、私にとって塾は花まるとFCだけなんです。

高 自学で大学受験を突破したの？ それはずいぶん。

平 ラグビー部は引退が遅いのでほかの受験生と同じことをしても絶対に受からなと思う、みんなが予備校で授業を受けている間に問題を解いて、わからないところだけ学校の先生に質問することにした。高校の先生方が親身になって教えてくださり、現役で合格できました。

高 自分に必要な道を見抜いてやり抜いた

のか。その思考、ものすごくコンサルに向いているよ。花まるやFCで学んだことでいまも役立っていることはある？

平 勉強の「仕方」を覚えていただいたことです。自分で方法や段取りを決めて結果を出すことは、仕事にも通じていると感じています。また、中学3年生の一年間で勉強に本気で打ち込み合格を勝ち取った成功体験が、限られたリソースを本気で割けば誰にも負けないという自信に変わりました。その自信は、間違いなくいまの自分につながっています。

高 やればできるという自信こそが大切なんだよ。

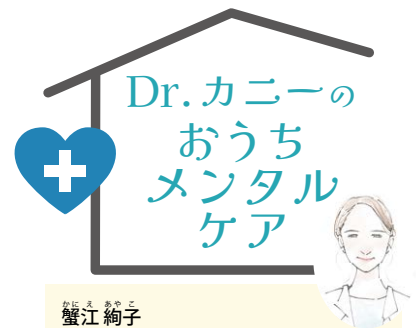
平 子ども時代にしか育めない力だとも思います。
高 そこまで実感してくれていたなんて、本当に嬉しいよ。これからもさまざまな分野で大活躍しそうだね。応援しています！
平 ありがとうございます！



ご両親のことなど、続きはこちら！



どうやらまわりの子に比べて人の気持ちがわからないようです。国語の読解問題や道徳の授業で、質問に対してとんちんかんな答えを言ってしまう、先生がフォローする……という場面が多いと面談で言われました。なにか対策はあるでしょうか。



蟹江 紬子

東京の大学病院にて児童精神科医として臨床に携わる傍ら、妊産婦やアスリート、神経発達症、精神疾患を対象とした認知行動療法の研究を行う。VRやアプリを活用した認知行動療法のプログラム開発にも取り組み、精神医学・心理学の啓蒙活動一般の方や教育業界向けに展開。二児の母としての経験も活かし、親としての目線で日々の生活や子育てに役立つ情報を発信中。

人の気持ちがわからないときのサポート

「国語の読解問題や道徳の時間に、とんちんかんな答えをしよう」と先生から指摘されると、親としては心配になりますよね。実は、こうしたケースにはサポートする方法があります。



社会認知・心の理論の未熟さが背景にあるかも

人の考えや感情、その行動の意図を理解する力を「社会認知」や「心の理論」と呼びます。これがまだ発達途上にあると、人の気持ちを読み取るのが難しくなります。たとえば国語の読解で「主人公はどんな気持ちでしたか？」と問われたとき、本来は「主人公の視点」で答える必要がありますが、自分自身の視点を反映してしまうと、答えがずれてしまうことがあります。また、文章全体を見ずに一部だけで判断してしまうと、「とんちんかん」に聞こえる答えになる傾向があります。道徳の場面では「一般的なルールや社会の常識」を問われているのに、個別の具体例やユニークすぎる解釈を答えてしまうこともあります。

社会認知を鍛える工夫

対策としては「対人関係において人の頭のなかで起こっていることを、外に見える形にする」ことが効果的です。

- ✓ 対応場面をイラストにしたうえで、人物のイラストに吹き出しをつけて「頭のなかで考えていること」「感情」「実際に言ったセリフ」を書き出して整理する
- ✓ 一般常識や社会のルールも、あらためて言葉で解説して伝える
- ✓ ルールを教えるときは「例外」も一緒に説明して納得感を持たせる

こうした工夫で、理屈を学んだり、紙面に書き出したものを実際に見たりすることによって、理解が進み、腑に落ちやすくなります。また小説の読解を練習する際には、「感情の事典」のような教材を用いて、喜び・悲しみ・怒り・恐怖・嫌悪・驚きといった基本感情を、表情や声、しぐさと結びつけて学んで、感情を表す言葉がどの基本感情に分類されるかを理解すると効果的です。物語を読むときに感情を表現している言葉があったら、線を引く習慣をつけるのもよい方法です。また、その感情の移り変わりに注目してみるというのも大事です。説明文の読解では、「しかし」「また」「だから」「ところが」など接続詞を手がかりに、文章の流れや構造を意識して読む練習が役立ちます。一つのことだけで判断するのではなく、複数の手がかりを探して、総合的に考えてどうかという視点に立てるようにします。

「直感」よりも「理論」で学ぶ

人の気持ちを直感的に察することが苦手な子は、理論的に理解し、複数のパターンを覚えていくことで対応力を伸ばしていけます。その苦手さを理解してくれる大人がかみくだいて解説してあげると、その力はぐんと伸びやすいのです。ある程度「気持ちの理解」ができるようになってきたら、実際の経験を積むことが次のステップです。友達や先生とのやりとりを通して学ぶことで、実生活に生かせる力へとつながっていきます。

鍛えれば伸びる

まとめると、人の気持ちを理解する力は、周囲の大人が理解し解説してあげることで飛躍的に伸ばすことができます。ある程度、人の気持ちがわかるようになった段階で、友達や先生とやりとりする経験をたくさん積ませてあげたいものです。





花まる教室長がお届けする
子育て奮闘記

花まるリビング

52

勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小5・小3・年少の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくこ伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんずう初級』（学研プラス）ほか



“想像をふくらませるタネ”を投入

先月号では高学年対応について思うところを書きました。今月は「年少女子」対応のお話です。小5の長女が、幼少期から戦ってきた問題——「家事が忙しい夕方〜夜の時間帯に『ママ、いっしょにあそぼ!』と誘ってくる幼児にどう対応するか。同じ年頃の子どもをもつ知人と話すと『わかる〜! あの時がいちばん大変』としみじみ共感し合うトピックです。

朝の時間とは違う大変さとしては、夜は「この家事をあと回ししたら、子どもと遊んであげられなくはないけれど、そのツケは自分に回ってくる」「だから、私は『いま家事をしたい』『でも子どもは遊んでとせがんでくる……』という逡巡が発生するところ。（朝はきつと、迷っている暇すらないですよ。）

絶対的な解決策は見つからないまま、気づけば長女は遊んでとせがまない年齢になりましたが、いまも年少の次女が、時には小3長男も「あそぼ!」と誘ってきます。

先日、次女が「ごっこ遊び」をしたい、と誘ってきました。たくさん持っているくまのぬいぐるみに、自分の靴下を片方だけかせて「マーメイドくまさんたち」を作らだした彼女。「ママ、この子たちの、お世話して?」と頼んできたのです。私は、ちょうど食器を片付けはじめたところ。この家事だけは終わらせたい……。

いつもならここで、「ちょっと待っててね」と言うのですが、その日はふと、花まるの授業での声かけをイメージして、「受け入れる」↓「投げかける」というSTEPをふんでみることにしました。

STEP1 まずは、いったん受け入れる。なぜ、そう思ったのかを言語化してあげる。「わかった。マーメイドくまさん、たくさんいるから、お世話をするの大変だよな」（受容・共感）

STEP2 投げかける
「いまひらめいたかのように、あ、そうだ! こ

の子たち、お世話するときに注意したほうがいいことある? たえば、ずっとお水に入っていないと元気がなくなっちゃう、とか?」（新しく「想像をふくらませるタネ」を投入）

すると、その投げかけがピタッとハマり、次女の想像の幅が広がっていったようです。

「えっと、そうだよ。お水がないといけないから、お水を準備するね。でも熱いタオルはさわっちゃダメだよ……」などどぶつぶつ言いながら、自分のおままとキッチンほうに去って行き、そのまま10分ぐら自分の世界に没頭してひとり遊んでくれました。（そして私は、そのすきに食器洗いたスクを完遂!）

これは「ごっこ遊びに誘われたとき」に、特に使いやすい技ではあります。わが家ではいまのところ、勝率は6割程度。子どもの想像力が爆発しすぎて、逆にもっと強く「いっしょにあそぼ!」と誘われることもあります。

ただ、どちらの結果になったとしても、子どもの世界に「想像をふくらませるタネを投げ入れる」——想像力の幅を広げる声かけの視点としては、とても有効だと感じます。

子どもの見ている世界を一緒に眺める立ち位置になることで、自分の頭をぐるぐる動かせる必要も出てきます。ただ「ちょっと待っててね」というより、自分（親）も少し楽しくなってくるはず。そして子どもも、「大好きなお父さん・お母さんが、いったんでも、自分と同じ世界を見てくれた」というところに満足感を得るのかもしれない。

幼児期ならではのかけあいのおもしろさで子育てのいまを楽しむ、小さなヒントになれば嬉しいです。

花まる学習会 勝谷 里美



『アブナイかえりみち』
山本孝 作
(ほるぷ出版)

小学生男子5人組の「想像力（妄想力）」が爆発する絵本。学校からの帰り道が、想像力だけで大冒険に——! 子どもたちと同じ目線で世界を見ると、日常がこんなにも躍動しているのかと新鮮に感じられます。同時に、「そういえば自分の子どもの頃も……」と懐かしさがよみがえる一冊。同じシリーズには『アブナイおふろやさん』『アブナイこうえん』もあります。



「あと伸び力」を支える「非認知能力」の育て方
～幼児期に育むべき「学びの根っこ」とは～

子どもの「あと伸び力」を支える鍵として注目される「非認知能力」について、江藤真規氏と花まるおやこクラス発起人の大塚が語る対談です。家庭でのかかわり方や、声かけ、遊び・対話を通じて育てる具体的なヒントも!



花まる 子育てカレッジ



子育てや教育に関する
専門家の講演・トークを配信中!



※花まるグループ会員のみなさまは、花まるグループの会員IDとパスワードでログインすると、400本以上公開中のすべての動画をご視聴いただけます（一部の部門・コースの方は対象外です）。

ファイヤーの自由研究⑤

エレベーターが到着すると、
パジャマ姿の長女と毛布をかぶった
裸足の次女が乗っていた！

花まるパパ社員のわが家の自由研究、5
回目のコラムです。

野外企画などでお会いする保護者の方から、「どうして娘さん（長女）の彼氏は水ようかんを持ってきたのですか？（第2回コラム参照）」「娘さん（次女）は結局、足袋屋さんになったのですか？（第3回コラム参照）」と聞かれるようになりました。私のコラムを読んでいたとき、本当に嬉しく思います。

あるお父さまから、「水ようかんの謎をぜひ、次のコラムで書いてください」と懇願されましたので、書かせていただきます！

先日、わが家にきた長女の彼氏に聞きま



Kenji
箕浦 健治
(ファイヤー)
Minoura



した。そうしたら、「お店で一番大きい箱のお菓子が30個入りの水ようかんだったんです」と申し訳なさそうに言っていました。ちなみにその半分くらいを、彼氏がわが家で食べてしまいました（笑）。

では、本題に。

長女6歳（年長）、次女3歳（年少）の頃の出来事です。その日は12月で外に出ると息は白く、厚手の上着がないと身体のお冷まで冷えてしまうような日でした。その日、私と妻は前々から知り合いに頼まれていた新聞配達をすることになっていました。自分たちの住んでいるマンションですが、大きな棟が2つあり、配る部数は100を超えていたと記憶しています。慣れない私たちは、朝3時に起きて2つの棟に分かれて配達をすることにしました。指先や足先はすぐに冷たくなり、走らなくてもいいのに、身体を温めるために小走りで配達をし、1時間くらいすると東の空がうつすらと明るくなり始めて、「急がなくては」と焦りながらもなんとか終えることができました。

配達を終えた私と妻は、1階でエレベーターを待っていました。8階で止まっていたインジケーターを確認し、ボタンを押すと、下におりてくると思っていたエレベーターが上にあがっていきまふ。誰か上に行ったのか？」と思いながら、寒い身体を動かしながらインジケーターを見つめていました。エレベーターは14階まで上がっ

てから、しばらくして降りてきました。3階くらいにエレベーターが降りてきたときに、子どもの泣き声が聞こえてきました。どこかで聞いたような泣き声です。もしかしてという不安が湧くのと同時に、エレベーターが1階に到着しました。扉が開くと、長女と次女が泣きながらエレベーターに乗っていました。

次女は、パジャマの上に毛布を羽織っていました。裸足でした。長女は靴はちゃんと履いていましたが、パジャマだけでした。私たちの姿を見た二人はさらに大きな声で泣きはじめました。とりあえず、エレベーターに乗って14階の家まで戻り、何があつたのか聞くことに。

温かい飲み物を飲ませて、少し落ち着いたのを確認して長女に聞いてみると、「起きるとお父さんもお母さんもないので、わたしたちを置いてどこかへ行ったと思った。だからすぐに妹を起こして、毛布をかぶせて追いかけた」という内容でした。寒いから次女に毛布をかぶせてくれた優しさ、でも靴を履くところまで見ることができないくらい慌てていたのだと思いました。妹を守らないといけないという姉妹愛を感じるということができました。その日はもう少し寝ようということになりましたが、起きて二人の布団を見ると砂だらけでした。私たち夫婦も慌てていて、足を拭いてあげるのを忘れていたことに気がつき、大笑いしました。

いまでもエレベーターから子どもの泣き声が聞こえてくると、このことを思い出して胸がきゅんとしてしまいます。そして、家族みんなが話して「あのときは……」と笑い合ふのです。

子どもが小さい頃は成長などで感動していました。子どもが大きくなっても昔の話をして大笑いできることが幸せな時間です。何歳になっても成長している娘たちには感謝がありません。

さて、今回は「娘」一人の子育てを振り返って大事だったなと思うこと3つ」をお届けします。

花まる学習会 箕浦 健治



『勇気の花がひらくとき
やなせたかしとアンパンマンの物語』

梯 久美子 文
(フレーベル館)

「何のために生まれて、何をして生きるのか——？」朝ドラで話題、多岐に渡る分野で活躍したやなせたかし氏の生涯と、代表作「アンパンマン」の

誕生秘話を知りたいならこの一冊。幼少期の家族との別れや戦争体験、たくさんの人との出会いなどが、豊富なイラストや写真付きで紹介されていて非常に読みやすいです。著者はやなせ氏が編集長を務めた雑誌『詩とメルヘン』の元編集者でもあります。



『カラフル』

阿部 暁子 著
(集英社)

第22回本屋大賞受賞作『カフネ』（講談社）で話題、来年の入試でも出題必至の著者による直球の青春ストーリー。高校入学式の朝、駅のホームで

ひっそりと犯をつかまえた主人公の伊澄は、犯人の前に出で足止めをしようとした勝気な車いすユーザー・六花と知り合いに。実は六花と伊澄にはそれぞれ秘めた「挫折」体験があって……。どうしてもない現実に打ちのめされた心がうずく再び生きていくプロセス、人の視野が広がる瞬間を美しく描いた珠玉の物語。



『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木 俊貴 著
(小学館)

読み終えたあとに、身のまわりの世界が確実に変わって見える——。そう感じられる本に巡り合えることが時々あります、この本はその確かな一冊です。

人間だけが言葉を持っているというのは大きな間違い。鳥たちの世界にも極めて豊かな言葉の世界があると考えるのが、むしろ進化生物学的にも正しいのだ！ 第24回新潮流ドキュメント賞、第13回河合雄雄学芸賞などを数々受賞。「現代のドリトル先生」と呼ぶべき気鋭の研究者による、2025年を代表するノンフィクション。



Vol.73

平沼 純の



さよなら 2025 年
～今年を彩った本・作家たち～



『ぼくはふね』

五味 太郎 作
(福音館書店)

第30回日本絵本賞大賞受賞作。

日本を代表する絵本作家・五味太郎氏による、デビュー50周年記念の集大成的絵本。嵐の海から救い出されて陸に上がった小さな船は、どこへも行けなくなってしまいます。そんなとき、ほかの船から声をかけられ——。「そのきになればどこだってすめるものだよ」など、シンプルなストーリーのなかに時折出てくる、ハツとさせられる数々の台詞が魅力。先行きの見えにくい現代を生きるなかで、そっと背中を押してくれる一冊です。



『ひとのなみだ』

内田 麟太郎 文
nakaban 絵
(重心社)

第30回日本絵本賞受賞作。大統領

が呼び、戦争が始まる。お金のある国が、お金のない国へロボットの兵隊やドローンを送り込んで攻めていく。ぼくたちはそれを映像で見るだけ。しかし、突然テレビに映った「本当の戦争の姿」を見たぼくは……。太平洋戦争終結80年の今年も、世界中で多くの争いがありました。是非時間をとってこの本をじっくりとひとりで読めば、この世界のなかで「人としてあること」に思いを馳せていただければと思います。

※品切れ中等、書店ではお求めいただけない場合があります。図書館等で探してみてください。



加藤 崇彰
(カト じり)

花まる こうら

おばあちゃん、いつもありがとう

実家の庭に一本の大きな榎の木がありました。母屋の屋根を軽く越えるその木は、四方に枝を広げ、まるで空へ手を伸ばすかのように立っていました。私はその木が大好きでした。どこまで登れるのか、てっぺんからはどんな世界が見えるのか。小さな手で枝をつかみ、夢中で登ったあの頃。

足場の不安定な枝の上で、ふと聞こえた声がありました。

「落ちたら危ないからね。気をつけてよ」
下から見上げる祖母の声でした。声を荒らげるわけでもなく、無理に止めるわけでもない。ただ心配しながら、私の気持ちをそっと受け入れてくれている、そんな温もりがありました。

高い枝の上から祖母を見下ろしました。割烹着姿でじっと私を見上げているその姿。何も言わず、ただそこにいてくれる

存在。あの安心感は、大人になったいまも心の奥に静かに根を張っています。

祖母はたくさんのことを教えてくれました。草花の名前、干し柿の作り方、鎌の研ぎ方、空の色や風の匂いから天気を読むこと。祖母と過ごす時間は毎日が宝箱のようでした。そして祖母は物を本当に大切にする人でした。いただきものの包装紙を丁寧にのばして畳み、紐一本も無駄にしない。古くなった服は布巾にして油を拭く。

「まだ働いてもらおうね」
とにっこり笑う祖母の笑顔は、いまでも目に焼きついていきます。

なかでも忘れられないのは、ちり紙のことです。祖母はティッシュで鼻をかんだあと、それを綺麗に畳んで割烹着のポケットにしまい、乾いた頃にまた使っていました。子どもながら驚きましたが、祖母にとっては自然なことでした。

「まだ、きれいなところが残っているからね」

そう言って笑う祖母の目は、まっすぐであたたかく、どこか誇らしげでした。ものの命を見つめるように、すべてを慈しむ。それが祖母の生き方そのものでした。その姿は、私にとっての「見守る」という言葉の原型かもしれません。目の前の

事象を大きな心で受け止め、手を出しすぎず、でも決して目を離さず。心地よい距離感で、相手の力を信じて待つ。あの榎の木の下で私を見上げていたまなざしと重なります。

ひとつだけ、いまでも胸に残る後悔があります。保育園の遠足で動物園に行った日のこと。友達はお母さんと来ていたのに、私の隣には祖母がいました。両親は共働きで、行事に参加してくれるのは祖父母が多かったのです。私は祖母が大好きなのに、あの日は素直になれませんでした。

「うちはお母さんじゃない」とむくれてしまったのです。祖母がカメラを向けても、わざと下を向き、写真に映らないようにしました。集合写真では、不機嫌な私の横に静かに立つ祖母。きつと寂しかったと思います。それでも祖母は何も言いませんでした。いまでもその話を笑いながらしてくれま。昔もいまも、どんな私もまるごと受け止めてくれる人です。

数年前、あの榎の木は切り倒されました。庭師さんも高齢になり、手入れが難しくなったのです。あの木に登った日々も、てっぺんから見た景色も、もう戻りません。けれど先日、実家に帰ると、切り株のそばから新しい芽が顔を出していました。根はまだ生きていたのです。その芽を見たとき、胸の奥がじんわりと熱

くなりました。祖母の教えもまなざしもあの榎の木の根のように、いまでも私のに静かに息づいています。

祖母はいまでも元気に暮らし、昔と変わらぬ笑顔で迎えてくれます。榎の木も祖母も、私の「根っこ」なのだと思います。どこまでも自由に枝を伸ばせたのは、深く静かに根を張る存在があったから。

そしていま、私も親となり、わが子を見守る日々のなかで実感します。つい口を出したくなること、心配が先に立つこと。「それは危ないよ」と言葉が先に出てしまい、あとから反省するばかり。「見守る」とは、その子を信じて、どっしり構えて待つことだと、後悔のたびに思い出のです。

祖母と過ごした時間。あの榎の木と空の青さ。幼い日の後悔とあたたかな眼差し。それらすべてが、いまの私を支える「根っこ」になっています。私もまた、いつか誰かの「根っこ」になれたらと願いながら、今日も子どもたちの背中を見つめています。

花まる学習会 加藤 崇彰

花まるの
教室長を
紹介します!

Hanamaru Family 花まるファミリー

オンライン

アルゴ ...アルゴクラブ

FC ...スクールFC

ART

無人島

Hanaspo

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



秋山 翔

東京東 FC 神奈川県



内海 拓也

埼玉 神奈川県



川波 朋子

東京都



小池 麻菜

神奈川南 山梨県



柴 健太

東京南 東京都



坪田 充生

茨城 東京都



西山 由乃

東京南 神奈川県



林 拓郎

東京西 長野県



古館 千代美

東京西 FC 埼玉県



吉岡 直哉

神奈川北 埼玉県



高濱 正伸

熊本県

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

12月の誕生日は ポインセチア

中学では吹奏楽部でトランペット。高校も安易に考えてオーケストラ部に入部したら、競争が激しく打楽器に配属になりました。ところがこれが幸運の始まり。一人の同級生がのちに芸大に行ったほどの猛者。彼女のつきっきりでの温かい丁寧な指導を受け続けることで、どんどん力がつきました。朝練、昼練、夕方は本当の部活練習。猛練習でしたが楽しくて楽しくて仕方ない、最高の青春となりました。 | 出井まりん真理